



#### 上記確度が得られないセンサー

1. 耳栓型センサー（2N-13）は形状と構造の関係で校正を行う事ができません。  
このため確度はなく互換精度 $\pm 0.1^{\circ}\text{C}$ （ $30\sim 40^{\circ}\text{C}$ の範囲）になります。  
抵抗値と温度の関係をセンサーに記憶していますのでR-T付きセンサーとして使用できます。
2. 直腸温センサー（2N-11）は $10\sim 50^{\circ}\text{C}$ まで校正してありますが、抵抗値が大きいため確度は $10^{\circ}\text{C}$ で $\pm 0.04^{\circ}\text{C}$ 、 $20^{\circ}\text{C}$ で $\pm 0.03^{\circ}\text{C}$ 、 $30^{\circ}\text{C}$ で $\pm 0.02^{\circ}\text{C}$ 、 $40\sim 50^{\circ}\text{C}$ で $\pm 0.01^{\circ}\text{C}$ になります。

#### 大気中での計測の注意事項

気温や耳栓型の計測では熱の移動量が少ないため計測周期を10秒以上に長くして下さい。  
短い計測周期の場合は自己発熱を防ぐため低電力で計測して下さい。

#### 熱容量の小さいセンサーの注意事項

ごく小さいサーミスタで熱容量が少ないセンサーでは計測で加える電力が無視できません。  
計測周期に反比例して誤差が生じます、しかし熱容量や熱的な結合状態の違いからセンサー個々に発生する誤差は違います。  
このようなセンサーでは低電力でかつ計測周期を限定して校正することをお勧めします。  
校正方法についてはご相談ください。

〒330-0063 さいたま市浦和区高砂1-2エイペックスタワー浦和211

TEL. 048-834-0016 FAX. 048-834-4538

グラム株式会社